

沖縄科学技術大学院大学（OIST）について

1. 目的

沖縄において世界最高水準の教育研究を行うことにより、①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の発展に寄与することを目的とする（沖縄振興特別措置法（平成14年法律第14号）、沖縄科学技術大学院大学学園法（平成21年法律第76号））。

2. 特色

大学院大学の設置主体として特別な学校法人「沖縄科学技術大学院大学学園」を設立。
沖縄振興の観点から国が特別な財政支援を行う（学園法）。

- ・学部の壁のない組織（単一の研究科・専攻）
- ・5年一貫制の博士課程のみ
- ・教育研究は英語で行い、学生・教員の半数以上は外国人となることを想定

（期待される沖縄振興への効果）

- ・科学技術の国際的な拠点の形成
- ・知的・産業クラスターの形成
- ・科学技術に関する人材の育成 等



3. 取組状況

○平成23年11月に大学院大学及び学園を設立。

（学園の理事等）

理事長/学長：ジョナサン・ドーファン（元スタンフォード大学線形加速器センター所長）

副理事長：ロバート・バックマン（元米国国立衛生研究所・神経疾患・脳卒中研究所副所長）

非常勤理事（14名）：ノーベル賞受賞者等の科学者、沖縄振興や大学経営に係る有識者等（H28.3.1時点）



キャンパス外観（平成27年3月）

○現在、教員51名（うち外国人33名）を含め、約40の国・地域から計434名（同229名）が研究に従事（H28.3.1時点）

（神経科学・分子・細胞・発生生物学、数学・計算科学、環境・生態学及び物理学・化学の5分野を基礎とする先端的・学際的な研究）

○平成24年9月に開学。現在、第1～4期生を合わせて103名（うち外国人85名）の学生が在籍。

○教員は、採用時及び原則5年ごと、外部の評価委員会により世界的に高いレベルの基準で評価。

○平成22年3月に第1研究棟、平成24年6月に第2研究棟、平成27年6月に第3研究棟を供用開始。

